

# 豪ドル/円が年初来高値を更新、内外の好材料に反応

## Insights from UBS Asset Management

### ポイント

- ・豪ドル/円は年初来高値を更新し、**80 円台**を回復。**200 日移動平均**を上回り、強気サインを点灯へ
- ・中国経済と米中貿易摩擦など外部の懸念材料の好転、金利面での相対的な劣性の緩和が豪ドルの追い風
- ・豪ドル相場は、テクニカルや需給面、国内材料の好転が加わり、上昇基調が継続する可能性も

### 豪ドル/円が年初来高値を更新

- ✓ 豪ドル/円は、**4 月 12 日**の終値で年初来高値を更新し、上値抵抗線となってきた **200 日移動平均線 (80 円近辺)** を上回り、テクニカル面での強気シグナルを点灯させています。
- ✓ 豪ドル/円の上昇基調が強まった背景には、①外部要因からは、米中貿易戦争激化や中国景気減速への懸念の後退、先進国中銀のハト派傾倒を受けた利回り追求の動き、②国内要因では、**RBA** からの過度な利下げ観測への牽制や総選挙を控えた政府の景気対策への期待、③市場要因では、**RBA** の複数回の利下げが相当程度織り込まれ、投機筋の豪ドル売りポジションが積み上がっていたことなど、が挙げられています。

### 中国経済の底打ち期待などが好材料

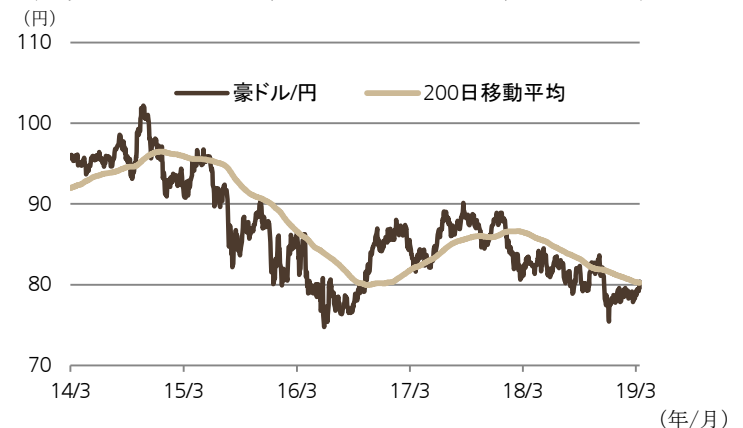
- ✓ 外部材料の好転が鮮明となっています。最近の中国経済指標の改善を受けて、中国および世界景気の減速懸念が後退しています。中国人民元や、原油や銅など資源価格の上昇は共に、豪ドルを押し上げる材料となっています。また、先進国中銀に加え、ニュージーランド中銀でもハト派色が強まった結果、金利面での豪ドルの劣勢が緩和されつつあります。対円においては、特に米中通商協議の進展を受けた投資家のリス

ク選好が豪ドルのサポート材料になっていると見られています。

- ✓ 中国経済指標においては、**3 月**の中国 **PMI** の強い結果に続き、**12 日**に発表された中国貿易統計及び信用の拡大も市場から好感されています。中国政府による一連の刺激策を受け、中国経済に対する悲観が楽観に転じたことが豪ドルのサポート材料となっています。中国景気の底打ち期待は資源価格の押し上げに繋がっており、豪州の交易条件の改善を通じた豪ドルのサポート材料と見られています。

### ■豪ドル/円の推移

(日次データ 2014 年 3 月 31 日～2019 年 4 月 12 日)



出所：リフィニティブ

## 国内の政治経済材料にも変化

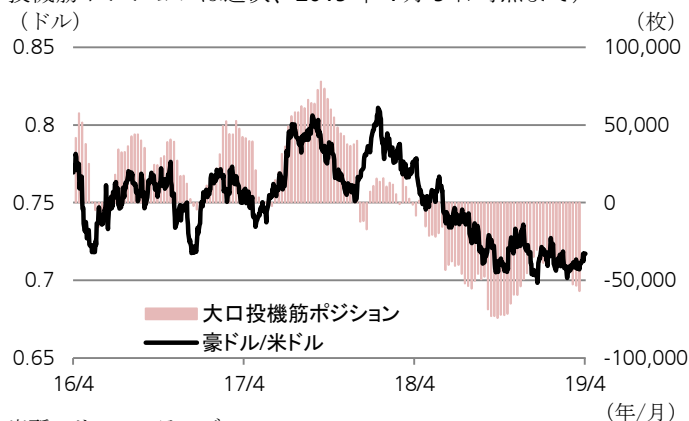
- ✓ 国内においては、市場の豪州経済への悲観と利下げ観測に対して、中銀からは市場への牽制とも思えるバランスある見解が示されています。デベル RBA 副総裁は 10 日、「オーストラリア経済の成長は堅調で、金利引き下げも必要ない。消費と GDP の減速が懸念材料だが、反面、雇用と投資がわれわれの期待通りに成長している。この相反する二つの要素をビジネス調査に照らし合わせる必要がある」と発言しています。
- ✓ 政治面での動きとしては、総選挙の日程が明らかになったことで、景気対策の議論が活発になっています。与野党とも、所得税減税や法人税減税など景気刺激策を掲げており、豪州経済にとっての追い風と見られます。与党・保守連合からは、5 月に実施予定の総選挙を念頭に置き、所得税減税や中小企業向け減税、インフラ投資などによる景気対策が打ち出されています。
- ✓ その 2019/20 年度連邦予算案（4 月 2 日に発表）において、豪州政府は学校や病院などの特定の目的に 583 億豪ドル、一般歳入補助金 691 億豪ドルと合わせて 1,274 億豪ドルを州に拠出すると発表しました。政府は今後 10 年間で、所得税減税では、低・中所得層を対象に総額 1,580 億豪ドル規模の追加減税を計画し、インフラ向け拠出額では 1,000 億豪ドルへ引き上げる方針を示しています。
- ✓ 国内経済においては、足元で個人消費の伸び悩みや住宅価格の下落などが重石となる中、特に主要輸送プロジェクトなどが注目され、雇用増など一定の経済効果が見込まれています。選挙の結果によって、これらの景気対策の内容が大幅に後退する可能性は低いと見られ、じわりと豪州の内需拡大に繋がっていくと思われれます。

## 今後の見通しについて

- ✓ 今後の豪ドル/円は、中国経済と米中貿易摩擦など外部の懸念材料の好転が続く中、テクニカルや需給面、国内材料が加わる形で、上昇基調が継続する可能性がでてきます。
- ✓ 豪金利先物市場（4 月 15 日時点）では、年内迄に 75%程度の利下げ実施が織り込まれています。市場参加者の間では、複数回の利下げ予想も増えており、為替市場での投機筋の豪ドル売りポジションも積み上がった状態にあります（下のグラフ参照）。需給面では、豪ドルが買い戻される余地も相応にあると推測され、テクニカル面での強気サインを支持する可能性があります。
- ✓ 国内経済の回復は時間を要すると見られますが、2018 年以降の豪ドル安・豪金利低下・豪株高が、将来的な成長率とインフレの押し上げに繋げる可能性を残しています。また、インフラ投資など政府による景気対策への期待も企業や消費者心理にプラスに働くと思われれます。
- ✓ 今後、以上の複合的要因によって、過度な国内景気への悲観と利下げ観測の後退が確認された場合、豪ドルのトレンド転換への確信がより強まるでしょう。

### ■豪ドル/米ドル、投機筋ポジションの推移

（豪ドル/ドルは日次、2016 年 4 月 5 日～2019 年 4 月 12 日、投機筋ポジションは週次、2019 年 4 月 9 日時点まで）



上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

商号： UBS アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 412 号

加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できると考えられる情報をもとに UBS アセット・マネジメント株式会社によって作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© UBS 2019. キーシンボル及び UBS の各標章は、UBS の登録又は未登録商標です。UBS は全ての権利を留保します。